

まちづくり大作戦 開催レポート

9月24日、「ヨコハマ市民まち普請事業」のイベント「まちづくり大作戦」が市民活動支援センターで開催されました。前半が28年度まち普請一次コンテストを通過した提案グループと過去に整備を終えた先輩グループとの活動懇談会、後半が提案グループと企業とのマッチング会という二部構成で行われ、まちづくりのヒントになる活発な意見交換がされました。

前 半の活動懇談会では、今年度の一次コンテスト通過グループが経過を報告し、審査員、既にまち普請を活用して整備を行った先輩グループからアドバイスを受けました。厳しくも的確な、そして先輩ならではの愛情あふれるエールまで、二次コンテストに向けた課題や提案作成についてのヒントを得る機会となりました。

後 半の企業マッチング会は、地域貢献について意欲の高い企業27社が参加しました。企業の事業内容の紹介の後、一次コンテスト通過グループの整備内容を聞き、具体的に協力の可能性を探るべく議論しました。最後は、今後協力の検討をしたいグループ名を企業の方々に投票していただきました。

地域の課題解決や魅力向上のための活動に市民と行政に加え、企業も入ることで、相互に協力してまちを住みやすくできるような地域の輪ができることを今後目指していきます。

このつながりが、二次コンテストの提案内容やその後の整備・維持管理・運営に生かされることを期待します。



★28年度二次コンテストが29年1月29日(日)に開催される予定です。詳しくは、ホームページ・Facebookで御確認ください。

地域まちづくり課 “公認” Facebook 「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

まち普請ひろば 検索 クリック

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね!」をよろしくお願いします。

(Facebookページの運営は協働事務局のNPO法人アクションポート横浜が担当しています)

ヨコハマ市民まち普請事業とは…

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの拠がりをつくることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のウェブサイトでご覧いただけます。

まち普請 検索 クリック

事前相談も随時受付中!

まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

＜情報提供のあて先＞

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、ヨコハマ人・まち 検索 クリック

平成28年12月発行

ヨコハマ人・まち

まちへ人がまちをつくる

vol. 52

発行: 横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641 Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

取材・編集: NPO法人 アクションポート横浜

TEL/FAX 045-662-4395 Email: info@actionport-yokohama.org

1P~3P まちの課題解決のお手伝いをする「まちづくりコーディネーター」をご存じですか?

4P まちづくり大作戦開催レポート

「まちづくりコーディネーター」
まちの課題解決のお手伝いをする
をご存じですか?

市民の皆さんがまちの課題解決に取り組む際、建築基準法などのハード整備にかかわる法規制や、計画に対して地域住民の賛同を得る「合意形成」など、専門的な知識やスキルが求められることがあります。横浜市にはそうしたまちづくりに関する知識と経験を持った専門家「まちづくりコーディネーター(以下、コーディネーター)」を、地域に派遣する支援制度があります。

「市民」、「行政」、そして仲介して間に立つ「コーディネーター」の三者が共に力を合わせることで、まちづくりは進みます。

今回は、「ヨコハマ市民まち普請事業」と「地域まちづくりプランの策定」を事例に、市民によるまちの課題解決における「コーディネーター」の支援について紹介します。

まち普請事業で整備されたマップや手作りのサイン(美晴台の道に愛称をつける会)



バス路線の延伸運行初日の記念セレモニーの様子(山下地区安全・安心まちづくり協議会)



ヨコハマ市民まち普請事業

美晴台の道に 愛称をつける会 (港南区上永谷)

港南区にある美晴台は、市営地下鉄ブルーライン「上永谷」駅から徒歩10分、小高い丘の上にあるまちです。

この地域には、住宅街で店舗などの目印がないため迷いや、夜道が暗いという課題がありました。そこで地域の有志で結成された「美晴台の道に愛称をつける会」が「ヨコハマ市民まち普請事業」を活用して、地域の道に愛称をつけ、道の名称を示すサインや案内板を設置し、さらに自治会の掲示板にソーラー照明を取り付けました。

このプロジェクトに携わったコーディネーターは、まちひとこと総合計画室の田邊さん。全体の進め方を組み立て、案内板のデザインやワークショップの手法などのアドバイスを行いました。

会の川上さんと高森さんは「ワークショップでは具体的な整備内容の話から始めようとしたら、『まず美晴台の良いところと悪いところをあげ、どんなまちなのか、そして、今後どんなまちにしていきたいのかをみんなで考えましょう』と田邊さんから言われて、面喰らいました。」とおっしゃいます。

田邊さんは「コーディネーターもそれぞれ個性があると思いますが、私は美晴台では『ヨソモノ』としての立場で関わりました。サインの製作や設置など細かいところはすべて地域の方々が自主的に行いましたが、私は計画全体を俯瞰したアドバイスや地域の声を反映するためのワークショップの手法などを提案しました。」例えば、サインのデザインを決めるプロセスでは、コンテスト形式で地域の子どもの作品をいくつか選ぶというアイデアが当初は出ていました。しかし、より多くの方が整備に関われ、その後のまちづくり活動に発展するよう、モチー



美晴台の道に愛称をつける会の高森さん(左)と川上さん(右)



まちひとこと総合計画室の田邊さん

フをワークショップで決め、ハンドペイントイベントで原画を作成することにしました。これにより、多くの人たちが交流しながら整備に携わることができました。一方で、「公共的な整備としてプロの技術や景観デザインの視点も必要と思い、画家とカメラマンにも支援に加わってもらいました。行政の担当者は、市民の力が最大限発揮できるよう、関係部署との調整や助言で提案グループを支えてくれました。こうした三者の役割分担が、美晴台の整備ではうまくできたと思います。」(田邊さん)とおっしゃいます。

会のメンバーは「行政の担当者は、毎回地域での打合せに出て、提案をより良くするアドバイスや参考事例を教えてください、二次コンテストを乗り切ることができました。」と振り返ります。

今では、「美晴台は変わった。」と地域の方々から言われるそうです。道の愛称をつけた看板の追加制作など小学校や中学校との連携も増え、活動への参加者も増えています。「この事業をきっかけに地域に知り合いが増えた。」と川上さんと高森さんはおっしゃいます。

整備後も、道の愛称を地域に浸透させるべく、お菓子がもらえる家を道の名前を使って探すハロウィンイベントなどを行っています。今後もこの整備をきっかけにし、コミュニティが広がっていくことが期待されます。

※「ヨコハマ市民まち普請事業」…市民のみなさんが身近な生活環境の整備を主体的に行うことを目的に、まちのハード整備に関する提案を募集し、2回の公開コンテストで選考された提案に最大500万円の整備助成金を交付する事業



地域の子供たちが参加し、サインを作成した、お絵かきワークショップの様子

地域まちづくりプラン

山下地区安全・ 安心まちづくり 協議会 (緑区山下地区)

緑区山下地区は、横浜環状北西線の道路建設が進められ、まちが変化しつつある地域です。その一方で、通学路が狭くて危険、地域内を通るバス路線が最寄り駅まで行かないなど、住民のニーズとのミスマッチがあり、住民同士が交流できる拠点が少ないなど課題も多いため、「地域まちづくりプラン(以下、プラン)」を策定して課題の解決に取り組むことにしました。

「山下地区安全・安心まちづくり協議会」ができたのが平成25年1月。ワークショップを重ねて、地域の意見をまとめ、課題解決に向けたプランを策定しました。

協議会ができた当初は「地域の課題ははっきりしてるけど、なかなか解決に向けた推進力がありませんでした。」と会長の荒谷さんはおっしゃいます。「さらに、そうした課題の解決のために市のどういう制度を使えばいいのか分かりませんでした。まちづくりプランという仕組みを使おう、というアイデアを出したのは、相談に行った区役所の担当者でした。」

そして、区役所からの紹介でコーディネーターとして山路商事㈱の山路さんが関わりました。「山路さんには地域の課題を整理してもらい、先進事例をいろいろ教えてもらって勉強になりました。私たちが言ったことが絵やデザインとしてでてくるので、課題解決に向けた活動のイメージがつけられました。」(荒谷さん)

山路さんは「山下地区はいろんな意見があったから、懸案事項を整理し、プランをつくりました。まとめるだけでなく、ある程度目指すまちの方向性をデザインすることで、具体化できるように工夫しました。」とおっしゃいます。荒谷会長によると「行政だけだと、どうしても



山下地区安全・安心まちづくり協議会会長の荒谷さん



山路商事㈱の山路さん

法規に合うか、合わないかという固い議論になってしまいましたが、地域の事情や歴史などを総合的に考慮し、柔軟にまとめてもらったと思います。」

そして、約1年間で地域の意見をまとめ、課題解決にしっかり結び付いたプランを策定しました。山路さんによると「やる気のある地域の人が出て、適切な制度や助成金を紹介して後押ししてくれる区役所の職員がいる。その間で、コーディネーターが通訳として両者の想いをつなぐことが大事」と言います。今では、プラン策定の過程で課題の一つとしてあがった、路線バスの延伸が実現しました。また、地元の企業の力を借りて、コミュニティバスの運行実験も始まります。まさに、プランの実現に向けた取組を行うことで、まちの課題が解決しつつあるのです。

※「地域まちづくりプラン」…安全で快適なまちづくりをめざして、まちづくりの目標、方法や、ものづくり、自主活動に関するなどを定めるもの



協議会での議論の様子

このコーディネーターの派遣制度は、市民の皆様が課題解決に取り組む際、市民の皆様のニーズとコーディネーターの得意分野の双方を鑑み、派遣が行われています。行政がコーディネーターの専門性を生かして地域の取組を支援することができれば、ますます横浜市における市民によるまちづくりが進むことが期待できます。

ぜひ、このような制度を活用し、魅力あるまちづくりをしていきましょう。